

幼児教育の大切さ

岐阜聖徳学園大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部

学長 観山 正見 氏



教育随想

私には三人の孫がいて、保育園のお世話になっていきます。私も含めて多くの人は、幼児教育そのものにはあまり関心がなく、残念ながら、最近の施設等での不注意事故や虐待事件に注目が集まるばかりです。

一方、幼児教育そのものについて二つの課題が浮き彫りになっていきます。一つは幼小連携問題です。子供達は六歳まで、幼稚園、保育園、こども園など様々な施設に通います。それぞれの施設は特色をもって子供に接していますが、統一感はないかもしれません。一方、小学校に入ると、一人の担任の先生を中心としたスタイルの教育が始まります。一部の児童には、そのスタイルの変化に対応できず、つまずく子もいます。

二つ目は、非認知能力の獲得です。IQや算数などのテストは認知能力ですが、「やりきる力」「他人との協調性」「感情を抑える力」などが、非認知能力です。この能力の獲得は、特に幼児の時期が重要です。米国の研究では、生涯給与に大きな差が出る実験データもあり、諸外国では大変注目されています。

幼稚園や保育園などは、今までは教育現場というよりは、預かってもらう場や、遊んでもらう場という感覚をもつ場合がこれまで多かったのではないのでしょうか。小学校と幼稚園・保育園の教育の両方がわかっていく先生や、非認知能力の重要性をしっかりと認識して、保育の現場に携わる先生を養成することが、大変



(みやま しょうけん)



令和6年2月1日
2月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岐阜聖徳学園大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部
学長 観山 正見 氏
- この人に聞く…………… 2
絵本専門士・食アレスマイルネット代表
栗田 洋子 氏
- 羅針盤…………… 2 憲
生徒指導指導員 武藤
- ふれあい…………… 3
緑丘小学校
教諭 今井 優樹
- 特集…………… 4
創立150周年記念
～地域とともに祝う子供たち～
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
窯作り(平成9年)
- この本を…………… 8



みんなが笑顔でいられる社会を目指して

絵本専門士・食アレルギーネット代表

栗田 洋子氏

食物アレルギーに関する資料を机いっぱいに広げ、穏やかな笑顔で話し始める。資料の中には自作の絵本が三冊。どれも栗田さんのメッセージが詰まった絵本である。

「食物アレルギーへの理解を広めよう」と思ったきっかけは――

私の娘には、重度のピーナッツアレルギーがあります。その娘が小学三年生のとき、私に脳腫瘍が見つかりました。それまで学校とのやり取りや原材料の確認を、私一人で行っていました。病気を機に、娘に自分の命を守る力を身に付けさせることが大切だと気付いたので。

私は、娘と一緒に原材料を確認することから始めました。しかし、それだけでは命は守れません。周りの人にアレルギーについて正しく知ってもらわなければならないと考えました。何より、娘の周りの小学生にいちばん分かってもらうことが、大切だと

思いました。そこで、絵本の制作を始めることにしました。

「絵本の制作や活動の中で苦労したことは――」

絵本の制作を決意したものの、思うように絵が描けず、一旦は諦めました。しかし、娘のためにどうしても伝えたいという思いから、ちぎりで描くことに挑戦しました。

二年かけて、やっと『ピーナッツアレルギーのさあちゃん』を完成させました。しかし、多くの人に読んでもらわなければ意味がありません。そのため、全国の図書館へ本を置いてもらえるようにお願いに回ったり、読み聞かせの授業や講演を行ったりしました。また、多くの方の理解を得るために、新聞でも紹介してもらえないかと考えました。地方の新聞社に出向き、取り上げてもらえるようをお願いしています。

「絵本が完成して終わりではありません。今もさまざまな方に理解してもらえようように努めています。」

「絵本で伝える魅力とは――」

言葉だけで伝えることは、伝わり方が違うと感じています。

私は、美合小学校で二十年以上、絵本の読み聞かせを行っています。絵本を通して伝えることで、作者のメッセージが、しずくが落ちるようになり子供たちの心にしみていくのです。そして、そのとき感じたことは、深く心に刻まれると信じています。

ある高校生は、私の読み聞かせの授業をきっかけに、アレルギーについて取材を重ね、全国高等学校総合文化祭で発表してくれました。

私一人では多くの人を救えませんが、絵本と出会い、関心をもってくださる方を増やすことで、アレルギーと向き合う子供たちやその家族の方を救うことができると思っています。

「みなさんに伝えたいことは――」

この絵本は、岡崎市内のすべての小中学校に置かれています。先生方による読み聞かせを通して、多くの小中学生が、食物アレルギーのことを考えるきっかけにしてほしいと思います。また、厚生労働省のホームページ内にアレルギーポータルサイトがあります。その中には、「小児のアレルギー疾患保健指導の手引き」があります。この先もアレルギーに関する内容は、どんどん変わる可能性があります。正しい情報につなげるためにも、多くの方に読んで活用してもらいたいと思っています。

「みんな一人一人が大切な人であり、みんなが笑顔でいられるように」と私は願っています。そして、食物アレルギーを当たり前に受け止めてもらえるような社会になるよう、絵本のもつ力を信じて、活動を継続していきたいと思っています。

アレルギーポータルサイト
QRコード



氏名 くりた ようこ
生年月日 昭和三十八年
一月二十五日
住所 岡崎市美合町



指導から支援へ

生徒指導指導員 武藤 憲

令和四年度の不登校児童生徒数は、全国で二十九万人を超え、過去最高を更新し続けている。令和四年十二月には生徒指導提要在十二年ぶりに改訂され、成長・発達を支える生徒指導の方向性が提起された。ここ最近よく耳にする「指導から支援へ」の言葉が意味するものは何か。

学校を訪問して、教室に入る際、まず目に入るのは子供の表情である。続いて背面黒板や掲示物に目が移る。担任が書いた言葉や詩から、学級や子供への願いが伝わる。学期の目標や行事の思い出など、個々の思いが込められた紙面から学校生活の息づかいが感じられる。そんな背面掲示には、ぼつりと作品の欠けたままになっっている教室を見かけることがある。その一方で、子供たちを懸命に支えようとする先生方にも出会う。休みがちになりつつあるという、

認められることで



緑丘小学校

教諭 今井 優樹

初めての一年生担任。入学式に出会ったのが、真新しいランドセルを背負って入学してきたAさんだった。その表情は不安気だった。

Aさんは、友達と関わり合うことが苦手なようだった。授業中や休み時間に、自分から友達に話しかける姿は見られなかった。唯一、担任の私か、他のクラスにいる一人の友達と話すくらいであった。

Aさんは、絵を描くのが大好きで、いつも自由帳に絵や迷路を描いては、私にだけ見せてくれた。好きなキャラクターや、謎解きを取り入れた迷路が描かれており、目を見張るようならばらしい出来だった。ある日、「この迷路、先生もやってみたら、ものすごく楽しかったよ。だから、クラスの子に紹介してもいいかな。」とAさんに話しかけると、少しためらってから、「うん」と小さい声で答

えた。クラスの児童に声をかけると、Aさんの席の周りに、一人、二人と集まってきて、そのうちにAさんが見えなくなるほど友達の輪ができた。「すごい」「ほくにもやらせて」「描き方を教えて」と、次々に声をかけられていくAさんを、人だかりの間からちらっと見ると、恥ずかしそうにしながらも誇らしげであった。その姿を見て、Aさんの得意な絵をきっかけにすれば、交友関係を広げ、自信をもって自分の思いを表現できるようにするのはないかと考えた。

そこで、図画工作科で、班ごとにスタンプを使った造形遊びを行うことにした。班に分かれて一枚の大きな画用紙にスタンプングをしていく。Aさんは、家から持ってきた材料を使って、一人で黙々と制作していた。画用紙の上にはばらばらに押し付けたスタンプが、形や模様となって広がり、次第に友達が押し付けた部分へと近づいていく。

「友達の形とつながりそうだね。」と声をかけると、Aさんは、「線路みたい。みんなつながって伸ばしたらおもしろいかも。」とつぶやいた。すると、他の児童も、「いいね、やろう。」

と賛同した。そこからAさんの様子が一変した。それまで下を向いていたAさんが顔を上げ、「電車みたいになったよ。」

「色を変えてみようよ。」

と、自分から話しかけて、班の中心になって制作し始めた。そして、紙いっぱいスタンプングされた一つの大きな作品が完成した。

授業の最後に、Aさんは指先までびんと伸ばし、手を挙げた。

「友達と協力したら想像以上にすてきな作品を作ることができました。」

その発言に、自然に拍手が起きた。いきいきと話すAさんを見て、友達に認められたことで、関わり合うことの楽しさや、協力することのよさを実感したことが分かった。

「先生、友達と遊んでくるね。」

休み時間に寂しく過ごすAさんはもういない。友達の輪の中にいるAさんの表情は、笑顔で輝いていた。



生徒Bの掲示ファイルに入れられた、

A教諭の掲示を見て、心が温まった。そこには、A教諭と共に映ったBの

写真が収められ、Bに向けた温かな言葉が添えられていた。一人を大切に

にするA教諭の思いはBだけではなく、きつと学級全体へ伝導していく

ことだろう。周りの子供たちの心を動かすことは、Bがいつでも戻れる

環境を整えていくことにつながる。

長期欠席傾向にある生徒Cの対応に悩む、D教諭の支援記録を見て胸

が熱くなった。登校日時だけでなく、新たに挑戦しようとしていることや

家庭で努力しているCの姿に加え、学年主任や養護教諭、役職者から得

た助言が事細かに書き込まれていた。Cの様々な姿を見取るとともに、よりよい支援のあり方を探ろうとする

D教諭の強い思いがうかがえた。

支援とは、一人一人の子供に応じて支えていくことである。それは決して簡単なことではなく、担任だけでは支えきれないこともある。だからこそ、同僚や役職者と連携を図る

ことが必要となる。さらに、子供同士で支え合おうとする関係性を高めることも大切な支援になるだろう。

いつ何時も子供の成長を願い、支援し続ける教師でありたい。

創立 150 周年記念

～地域とともに祝う子供たち～



▲子供たちの願いを乗せたバルーンリリース(男川小)

日本における初等教育の始まりは明治五年。学制の公布によって、全国各地に小学校が設立された。そして、戦後の新制中学校の発足や、経済成長、情報技術の発展に伴う教育の変化などを経て、多くの市内小学校が創立百五十年という節目を迎えた。

その節目の年を祝うべく、記念式典に加え、各校で子供たちの思いを取り入れた企画や、地域の方々の協力を得てつくり上げる催しなど、様々な形の記念事業が実施された。

子供たちの思いを取り入れた企画としては、スローガンや記念マークのアイデア募集と全校制作等が実施されている。全校児童がこれらの企画に携わったことで、子供たちは記念すべき年に学校の一員であったことを、記憶に刻むことができたであろう。

地域の協力を得た催しとしては、新しい遊具の設置や校歌の編曲、学区の間伐材を用いた壁飾りの製作等がある。地域の人脈を生かし、講演会やコンサートを実施した学校もある。

各校で行われた記念事業は、先人が築いてきた学校の長い歴史の上に、新たな一ページとして残っていく。学校に関わるすべての人たちが伝統と歴史を紡いでこられた先人に感謝し、新しい時代を担う子供たちの幸せを願う気持ちは、昔も、今も、今後も変わることはない。百五十年間、続いてきた営みを受け継ぎ、私たちはこれからも歩んでいく。

創立百五十年を迎えた

学校の記念企画

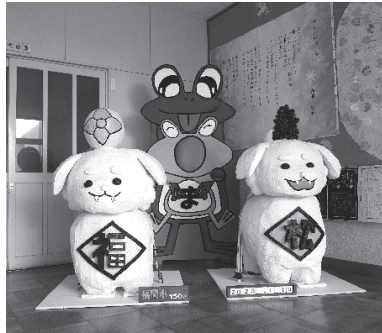
子供たちとともに

- ・航空写真
 - ・バルーンリリース
 - ・映像制作
 - ・スローガン作成
 - ・記念マーク作成
 - ・マスコットキャラクター制作
 - ・モザイクアート制作
 - ・ペットボトルキャップアート制作
 - ・児童による「学校への思い」の発表
 - ・「将来の夢・学校の好きなところ」掲示
 - ・ギネス記録への挑戦
- #### 地域とともに
- ・講演会やコンサートの開催
 - ・花火の打ち上げ
 - ・和太鼓部と外部団体との合同演奏
 - ・市消防音楽隊による演奏
 - ・地域の踊りを披露
 - ・横断幕の制作
 - ・記念グッズ製作、配付
 - ・記念Tシャツ製作、販売
 - ・キッチンカーによる販売
 - ・校歌の編曲、録音
 - ・校章、校旗、校札の新調
 - ・下駄箱の新調
 - ・間伐材の丸太で作った壁飾りの設置
 - ・散策コースの整備
 - ・植樹
 - ・時計台の設置
 - ・新遊具の設置
 - ・木製ベンチの設置
 - ・石碑の設置

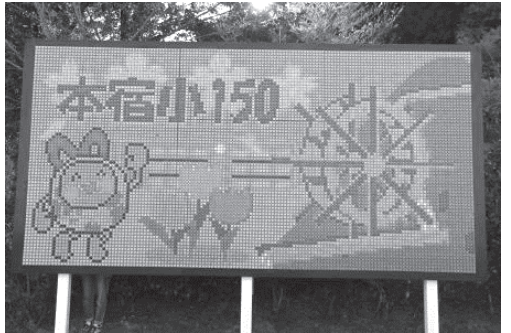
子供たちとともに



▲展示数で「ギネス世界記録」を達成した「折り紙で作ったモミジ」の展示(梅園小)



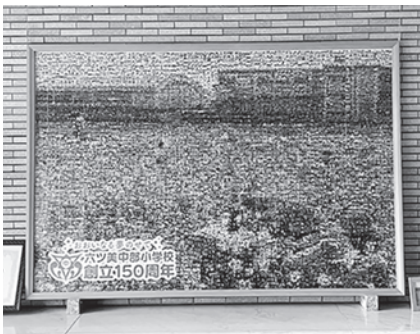
▲児童によるキャラクターの制作(福岡小)



▲全校児童によるペットボトルキャップアートの制作(本宿小)



▲マスコットキャラクターの選挙(奥殿小)



▲全校児童によるモザイクアートの制作(六ツ美中部小)



▲「下山っ子宣言」の発表(下山小)

地域とともに

▶PTAのイベントで
ファイナールを飾る手筒花火
(根石小)



▲連尺小出身の作曲家山中惇史さんが編曲した校歌の合唱を城北中オーケストラ部と合同で披露(連尺小)

▶「御殿万歳」と「チャラポコ太鼓」の披露(細川小)



▲間伐材を用いた丸太の壁飾りの設置(形埜小)



●最新情報

◆第67回岡崎市小中学校書き初め展

一月二十日(土)から二十一日(日)まで岡崎市美術館にて小中学校書き初め展が開催された。

市内小中学校及び聾学校、愛知教育大学附属学校から、各学級の代表作品二点ずつ、計二千点以上の作品が展示された。また、書き初め作品に加え、硬筆での書字力向上を目指して実施された「硬筆作品の部」に小学校三年生から中学三年生までの各校学年代表の硬筆作品も展示された。

二日間の会期中、六千六百二人が会場を訪れた。家族連れで来館する方が多く、作品の前で語り合ったり、記念撮影

をしたりする姿が会場のあちからこちらで見られた。

展示された書き初め作品は、文集「おかざき」に掲載される。



●表彰

◆第60回全国児童才能開発コンテスト

○作文部門

文部科学大臣賞(低学年の部)

本宿小 鈴木 心

文部科学大臣賞(高学年の部)

梅園小 杉浦あおい

全国都道府県教育長協議会会長賞

竜美丘小 金谷 紗菜

全国都道府県教育長協議会会長賞

北野小 穴井 羚

全国連合小学校長会会長賞

六名小 佐野 耀斗

全国連合小学校長会会長賞

六名小 橋本総一郎

全国連合小学校長会会長賞

本宿小 嶺石 実花

全国連合小学校長会会長賞

六ツ美西部小 日野 颯斗

日本PTA全国協議会会長賞

羽根小 澤井 信吾

日本PTA全国協議会会長賞

岡崎小 松下 詩織

日本PTA全国協議会会長賞

北野小 尾崎 志門

学研賞

六名小 佐野 愛母

学研賞

細川小 久谷 胡実

学研賞

六ツ美西部小 平川 茉歩

才能開発教育研究財団理事長賞

六名小 天野 泰志

才能開発教育研究財団理事長賞

連尺小 門井 萌衣

◆令和5年度第22回インスタントラーメン小学生レシピコンクール

○全国大会

農林水産大臣賞

竜美丘小 渡辺 藍梨

○中部大会

優秀賞

竜美丘小 渡辺 藍梨

入賞

竜美丘小 渡辺 藍梨

竜美丘小 深澤 虹晟

入選

竜海中 星加 琉名

◆二〇二三年度第24回大阪国際音楽コンクール

○ピアノ部門

入選

竜海中 星加 琉名

◆第12回全国書写書道総合大会

○総合の部

書字文化賞

矢作中 石丸 芽依

○全国学生書写書道展

中央審査委員会賞

井田小 諸星瑠莉花

全日本中学校長会会長賞

矢作中 石丸 芽依

全日本中学校長会会長賞

矢作中 杉浦さくら

○全国硬筆コンクール

全日本書写書道教育研究会会長賞

矢作中 石丸 芽依

◆第17回全国ビルメンテンスこども絵画コンクール

○小学生1〜2年生の部

銅賞 上地小 尾関 葉奈

◆第17回愛知県ビルメンテンスこども絵画コンクール

○小学生1〜2年生の部

佳作 上地小 尾関 葉奈

◆第71回統計グラフ全国コンクール

○第四部(中学1〜3年生)

佳作 竜海中 野田紗恵理

佳作

竜海中 野田紗恵理

- ◆第67回愛知県統計グラフコンクール 入選
 - 第四部(中学1~3年生)
 - 金賞 竜海中 野田紗恵理
 - 金賞 竜海中 織田浩太郎
- ◆第48回三河の菊まつり
 - 学校創作花壇の部
 - 愛知県教育委員会賞 豊富小
- ◆第27回「俳句の里」山梨県 感動賞
 - 笛吹市議会議長賞 藤川小
 - 南中 花戸 陽菜
- ◆第44回学校茶道エッセイコンクール 第一席
 - 甲山中 小河 紗月
- ◆NHKSDGsかるたコンテスト東海・北陸ブロック 最優秀賞
 - 岩津小 中西小百合
- 優秀賞
 - 岩津小 西川 泰輝
- ◆第42回全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会
 - 入選 矢作中 伊藤 咲希
- ◆令和5年土砂災害防止に関する作文コンクール
 - 六ツ美北中 山下 聖愛
- ◆第23回読書感想文「こころの木」
 - 美川中 石浦 慶一
- ◆第38回「WE LOVE トンボ」絵画コンクール
 - 六ツ美南部小 笹原叶太郎
 - 藤川小 山内 優雅
- 小学生の部
 - 藤川小 石本梨衣紗
- 書道の部
 - 愛知県共同募金会・愛知県知事賞 岡崎小 木下 華楓
 - 愛知県共同募金会・金賞 南中 西本 紬
- ◆令和5年度愛知県防火作品展
 - 愛知県共同募金会・審査員特別賞 井田小 近田小葉希
 - 竜南中 加藤 明日花
- ポスターの部
 - 愛知県共同募金会・審査員特別賞 福岡中 柴田 瑛子
- ◆第26回日本知的障害者選手権
 - 男子25m平泳ぎ 優勝(日本新記録) 竜海中 小林 奏斗
- ダウン症クラス少年の部
 - 優勝 石川 結大・渡邊優志朗
- ◆第16回愛知県市町村対抗駅伝競走大会
 - 優勝
 - 1区(中学生女子) 六ツ美北中 市川 紗帆
 - 3区(小学生男子) 井田小 長友 壱汰
 - 4区(中学生男子) 北中 秋田 順哉
 - 5区(小学生女子) 井田小 咽本梨々乃
- ◆第16回東海・北陸地区中学生創造ものづくり教育フェア
 - 第21回創造アイデアロボットコンテスト東海・北陸大会
 - 制御部門
 - 優勝 福岡中 鈴木 海斗・中根 一詠
 - 応用・発展部門
 - 3位 葵中 石川 結大・渡邊優志朗
 - 鈴木 聖歩
- 走高跳
 - 出場 南中 山本 佳与
 - 佐藤 巧・佐藤 暖真



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

六ツ美中 加藤 朱実

窯 作 り (平成9年)

写真提供：河合中学校



平成九年、河合中学校では、全校生徒で窯作りに取り組んだ。ハンマーを使って耐熱ブロックを水平に整えながら積み上げ、手作りの窯が完成した。

製作にあたっては、瀬戸窯業高校（現瀬戸工科高校）の教師の指導を受けた。当初は焼き物を焼くために作られ、その後炭焼きに利用するようになった。学校の周りの山から切り出した木や竹、木の実を材料にして炭が作られた。できた炭は文化祭などで販売され、好評であった。各学校で、地域の特徴を生かした体験的な活動が行われている。栽培や収穫、ものづくりなどの本物に触れる学習を通して、子供たちの生きる力が育まれる。

時をどれだけ刻んでも、変わらないものがある。それは、子供たちのことをいちばんに考える大人たちの姿だ。

創立百五十周年記念の企画には、学校や家庭、地域の、子供たちに向けた愛があふれていた。子供は宝だ。百五十年の思いを胸に、これからも子供たちが過ごす学校を愛であふれる場所にしたい。

本には作者の思いが込められている。その中でも、絵本は短い文章と絵で、子供だけでなく大人にも大きなメッセージを伝えることができる。娘のために作った一冊が、食物アレルギーと向き合う全国の子供や家族を救う存在になっている。みんなが笑顔でいられる社会を願う。栗田さんは今日もまい進する。

ど ホ

机の脚をひとつ高くした。何気なく教室を見渡すと、少し教室が狭くなった気がする。こんなふとした瞬間に、子供たちの成長を感じることが増えた。うれしいような、寂しいような、なんとも言えない気持ちになる時期だ。

あとひと月。次の一步を踏み出すことを願い、今日も子供たちを支える。

如 目 ツ



▲「ピアサポート」
入学説明会時に、中学1年生から
新入生へ中学校生活を紹介
(東海中)



*あなたとSDGsをつなぐ「世界を正しく見る」習慣
原 貫太 ¥1,400
KADOKAWA

心に残った一文
問題意識のないSDGsへの違和感

スマートフォンの裏に隠されたアフリカの紛争問題。私たちの便利な生活は、希少金属を争う遠く離れた国の苦しみにつながっている。遠い国の出来事ではなく、事実とデータに基づいて世界を正しく見て、背景にある世界の構造に目を向けてほしいと、筆者は強く願っている。

SDGsへの取り組みが当たり前のようになり、その先にある社会問題と自分とのつながりを知り、内から湧いてくる問題意識を抱いて行動することの必要性を考えさせられる一冊である。

- *小さな感謝 鹿島しのぶ ¥1,200
三笠書房
 - *アウトプット思考 内田 和成 ¥1,500
PHP研究所
 - *「授業研究」を創る 鹿毛 雅治・藤本 和久 編著 ¥1,800
教育出版
- 生平小学校 尾崎 智佳